

共立女子大学・共立女子短期大学Kyoritsu教学DX推進プラン

1. Kyoritsu教学DX推進プランの目的・目標

- ・共立女子大学・共立女子短期大学では、学修者本位の教育を実現するため、他大学に先駆けて2007年度より授業支援システムとしてkyonetを導入し、学修環境のDXを推進してきた。
- ・2019年度、それまでのkyonetをより高度化したLMSに更新するとともに、学修ポートフォリオを導入し、学修データを蓄積・可視化する環境は格段に向上した。
- ・2020年度以降は、教育効果の高いオンデマンド型オンライン授業の積極的な導入、全講義室へのWebカメラの整備、Kyoritsu Myパソコン制度（学生1人1台PC所有）の導入を進めたことにより、本学の学修環境のデジタル化は促進されつつある。
- ・第三期中期計画においては、「学修成果や教育成果の可視化の結果を活用した継続的な改善活動により、学生が専門的な知識・技能を活用しながら、「共立リーダーシップ」を発揮できるよう、組織的に協働し支援を行う」との長期目標の達成のため、「Kyoritsu教学DXプラン」に基づき、学修方法・教育方法を充実させる」という評価指標が掲げられている。
- ・また、この間、国の政策としても、「大学教育のDXによる質的転換」として、進展するデジタル技術の活用による、学修データの可視化及び当該分析結果を活用した学修者本位の学びへの転換等による、効果的で質の高い学修等の実現が掲げられ、こうした取組を支援する補助金制度が創設されている。
- ・今後、上記のような第三期中期計画における目標や社会的要請を踏まえて、ICT環境を活かした教育の質的転換や、学修支援の充実等について、より一層進めていく必要がある。
- ・今回、Kyoritsu教学DX推進プランを新たに策定し、ICTを利活用した質の高い教育や学修支援等を実現するための施策を確実に実行していくための体制を構築する。
- ・Kyoritsu教学DX推進プランにおいては、以下のような目標を掲げる。

- ①質の高い教育を実現するための、ICT環境の充実を図る
- ②ICT環境を活用した学修者本位の学修の実現を図る
- ③ICT環境を活用した効果的で質の高い教育の実現を図る
- ④ICT環境を活用した入学前・入学後・卒業に至るまでの一貫した質の高い学生支援の実現を図る
- ⑤ICT環境を活用した学外のコミュニティとの連携強化による教育・研究支援の実現
- ⑥ICT環境を活用した効果的なブランディング・広報の実現

2. 具体的計画

1. の目標を実現するために、以下の通り具体的計画を掲げる

(1) 質の高い教育を実現するためのICT環境の充実

①無線LAN環境の整備・充実

Kyoritsu Myパソコンの活用等の前提となる、学内無線LAN環境の整備・充実・安定化を図る。

②Kyoritsu Myパソコンの活用を促進するための環境整備

Kyoritsu Myパソコンの学内における活用を促進するために、充電環境の充実、印刷環境の改善、その他学内の各種デバイスと接続するための環境改善、授業外学修等に活用できるスペースの確保等を図る。

③情報演習室の環境整備

Kyoritsu Myパソコンのさらなる活用・普及を見据え、情報演習室のあり方を見直し、整備・充実を図る。

④kyonetの機能向上

学修成果の可視化とその活用という観点から、kyonetの運用効率の改善・機能の充実を検討し、随時システム更新・関連システムの整備を行う。

⑤その他関連環境の整備

入学前から入学後の学生支援・学修支援（入試・キャリア支援含む）、国際化、社会連携・貢献、ブランディング・広報に活用できるICT環境の整備を行う。

【計画の評価指標】

<アウトプット指標>

- ・学内ネットワーク環境・ICT環境の整備実施件数 10件以上

<アウトカム指標>

- ・学修行動調査における以下の項目
 - 1) 情報関連設備に関して「非常に満足している」の割合 50%以上
 - 2) kyonetに関して「非常に満足している」の割合 40%以上

(2) ICT環境を活用した学修者本位の学修の実現

①kyonetによる学修成果可視化情報を活用した学修指導の充実

- ・学修活動・学修成果に関するデータの蓄積・集約（ログ集約・分析）と可視化
- ・学修ポートフォリオにより可視化された学修成果に基づく、習熟度に対応した学修指導の充実

②kyonetによる学修成果可視化情報を活用した教育の充実

- ・可視化された学修成果に基づく、学修者本位の観点でのカリキュラムの点検・評価・改善の実施

【計画の評価指標】

<アウトプット指標>

- ・担任（アカデミック・アドバイザー）による学修指導の実施数 各学生に対し年間1回以上
- ・自己点検・評価における可視化データに基づいた授業等の改善の実施数 5件以上

<アウトカム指標>

- ・授業評価アンケートにおける、授業科目の到達目標を獲得できたと自己評価する学生数の割合 80%以上
- ・学修行動調査における、履修指導に関して「非常に満足している」の割合 40%

(3) ICT環境を活用した効果的で質の高い教育の実現

①ICT環境を活用した多様な授業形態の実現

- ・ Kyoritsu Myパソコンを活用した効果的な学修の促進
- ・ 対面授業とオンライン授業の利点を活かしたブレンデッドラーニング（反転授業等）の促進による、柔軟な授業形態・学びの構築・アクティブ・ラーニングの質の向上および主体的学修の促進

②ICT環境を活用したFD・SD活動の充実

- ・ 蓄積・集約された教育情報（収録した授業動画等）の活用による授業内容・方法等の改善・充実、優れた教授方法の共有による教育の質向上

【計画の評価指標】

<アウトプット指標>

- ・ Kyoritsu Myパソコンを活用した授業実施数 500以上
- ・ 対面授業とオンライン授業の併用による授業実施数 100以上
- ・ 蓄積・集約された教育情報を活用したFD・SDの実施数 5件以上

<アウトカム指標>

- ・ 学修行動調査における以下の項目
 - 1) 1日あたりの事前・事後学修時間が2時間以上の学生数の割合 70%以上
 - 2) ディプロマ・ポリシー自己評価において、DP「リーダーシップ」の学生の到達度自己評価 50%以上

(4) ICT環境を活用した入学前から卒業に至るまでの一貫した質の高い学生支援・学修支援の実現

①ICT環境を活用した志願者・入学予定者への支援の充実

- ・ 入試の戦略的Web化の促進による、志願から入学手続に至るまでの受験生・保護者への支援の充実
- ・ kyonetを活用した入学前教育の促進による、大学・短期大学における学修への円滑な移行の実現

②ICT環境を活用した学生支援・学修支援の充実

- ・ kyonetの学生カルテをはじめとする学生支援・学修支援に対応するシステムの機能の充実や活用の促進による、学生のニーズに対応した効果的な支援の充実
- ・ 社会や企業との接点に関するデータを学内で効率的に共有する仕組みを整備するとともに、kyonetを活用したキャリア支援体制を充実する

【計画の評価指標】

<アウトプット指標>

- ・ 入学定員1,495人に対して、あらかじめ設定した入学予定者数を確保している
- ・ 入学前教育の受講者数の割合 80%以上
- ・ kyonetを活用した学生生活・キャリア支援に係る相談対応の実施数 月平均500件以上

<アウトカム指標>

- ・ 学修行動調査における以下の項目

- 1) 本学の選択理由において「入試方法」を選択した学生数の割合 30%以上
- 2) 卒業までの学修計画を立てることができると回答した学生数の割合 20%以上
- 3) 学生生活支援に関して「非常に満足している」の割合 40%以上
- 4) 就職・進路支援に関して「非常に満足している」の割合 20%以上
- 5) 図書館利用サービスに関して「非常に満足している」の割合 50%以上
- 6) ラーニング・コモンズに関して「非常に満足している」の割合 40%以上

(5) ICT環境を活用した学外のコミュニティとの連携強化による教育・研究支援の実現

①ICT環境を活用した国際化の推進

- ・オンラインの手法を国際的な大学間交流に活用することによる、国際的・双方向的な教育・研究の充実

②ICT環境を活用した社会連携・貢献の推進

- ・ICT環境を活用した、多様な地域社会等との連携による教育活動の活性化・地域社会等の課題解決への貢献の充実
- ・ICT環境を活用した、卒業生や社会人に対する支援の充実

【計画の評価指標】

<アウトプット指標>

- ・オンラインの手法を活用した国際的教育プログラムの導入数 5件以上
- ・オンラインの手法を活用した国際的共同研究の実施数 5件以上
- ・ICT環境を活用した地域等との協働によるPBLプログラムの実施数 5件以上
- ・ICT環境を活用したリカレント教育プログラムの実施数 5件以上

<アウトカム指標>

- ・国際交流プログラムに対する学生満足度 80%以上
- ・国際的な共同研究の成果としての論文発表数 5件以上
- ・地域等との協働によるPBLプログラムに対する学生満足度 80%以上
- ・リカレント教育プログラムに対する受講者満足度 80%以上

(6) ICT環境を活用した効果的なブランディング・広報の実現

- ・ICT環境を活用した、ステークホルダーのニーズに合わせた情報発信の促進による本学の社会的認知度の向上
- ・ステークホルダーのニーズに関するデータや、各種ビッグデータについてデータサイエンスを活用した手法により可視化・分析することによる適切なブランディング戦略の構築

【計画の評価指標】

<アウトプット指標>

- ・ICT環境を活用した戦略的広報の実施数 5件以上

<アウトカム指標>

- ・外部調査における、本学の認知度 50%以上

3. 情報セキュリティへの対応に係わる方針

情報セキュリティへの対応は、学園総合情報センターがこれを担い、「共立女子学園情報セキュリティポリシー」に則って実施する。

(1) 情報セキュリティの構築・運用・保守

・情報セキュリティ対策基本方針に基づいた以下の事項の実施

(1)情報セキュリティ対策の実施体制の整備

(2)情報及び情報システムの保護

(3)情報システムや情報サービスの管理・運用

(4)インシデントへの対処

(5)法令の遵守

(6)上記(1)～(5)を含む情報セキュリティマネジメントの実施

・情報セキュリティポリシー、個人情報関連規程および文書処理規程に準拠した電子化情報に関する取扱いルールの方針策定と運用

(2) 情報セキュリティに関する教育・訓練

・すべての教職員を対象としたセキュリティ研修を3年に1度実施

4. 実施体制

(1) 推進責任部門

①総合情報センター運営委員会

・学園のDX方針に基づき、Kyoritsu教学DX推進プランの評価・承認・運用を行う。評価は、設定した評価指標の妥当性および評価指標に基づいた計画の進捗の評価を行うものとし、学識経験者1名、産業界等に属する者1名を委員として任命し、外部評価を取り入れる。

・情報通信技術環境、情報システム、情報セキュリティの構築・運用・管理を行う、
・情報リテラシーの向上に関する取組みを行う。

②大学・短期大学DX推進委員会

・総合情報センター運営委員会のもとで、学園のDX方針に基づき、大学・短期大学のKyoritsu教学DX推進プランを策定し、関連部門と連携を取りつつ、プランの実施および進捗状況の管理を行う。

③研究科長・学部長・科長会

・Kyoritsu教学DX推進プラン全体について、大学・短期大学の学修支援・授業支援の充実の観点から協議を行い、その進捗状況について評価を行う。

(2) 教職員を対象とした技術支援・教育支援体制

①高等教育開発センター

Kyoritsu教学DX推進プランを実現するための、主に教員を対象とした技術支援・教育支援を、総合情報センター・大学・短期大学DX推進委員会との連携のもとで実施する。具体的には、ICTを活用した授業や学修を実施するための支援、個別相談・指導の実施のほか、各学部・科における取組みの集約等に基づく、ICTを活用した教授法に対する技術面・教育面での支援を行うためのFD・SD活動を実施する。

②教学システム運用・検討ワーキングチーム

- ・Kyoritsu教学DX推進プランを実現するための、主に職員を対象とした技術支援・教育支援を、情報センター・大学・短期大学DX推進分科会との連携のもとで実施する。具体的には、ICTを活用した学修支援や学生支援を実現するための支援、教学システムの運用・更新を含む大学事務部情報化の取りまとめと実行を担う。

5. 情報発信

①ホームページでの公表

Kyoritsu教学DX推進プランおよびプランに基づく具体的な取組み内容（指標含む）について、ホームページにおいて公表する。

②他大学等に対する取組みの普及活動

Kyoritsu教学DX推進プランの取組み内容、教育効果や取組みの中で得た知見等について、他大学等への普及を目的とした活動を実施する。実施にあたっては、千代田区キャンパスコンソの活用を検討する。

③産業界・地域社会等に対する取組みの発信活動・意見聴取

産業界・地域社会等において必要とされる人材ニーズを踏まえた教育の実現の観点等から、取組み内容を発信し、取組みの改善を目的とした意見聴取を実施する。実施にあたっては、千代田区キャンパスコンソの活用を検討する。

以上